

DX-IT推進指標 説明書

2026/5/25

独立行政法人情報処理推進機構

- ◆ 本指標のコンセプトの説明の流れは以下の通りです
 - 1. DX-IT推進指標の基本設計コンセプト
 - ① 基礎となる考え方
 - 概要、位置づけ、活用方法、重視する点
 - ② 得られる利点
 - 2. DX-IT推進指標の各要素のコンセプト
 - ③ 成熟度の考え方
 - ④ 指標設問の策定方針
 - ⑤ 自己評価レポートおよびガイドブック
 - 3. 評価に関するご案内

- ◆ 本資料は、DX-IT推進指標のコンセプトを示したものです。
- ◆ 想定読者は、CIO／CDOやIT・情報システム部門長などの意思決定層ですが、それ以外の方にも広くご活用いただくことを想定しています。
- ◆ 留意事項
本資料は主にユーザー企業を対象として作成しています。
ベンダー企業およびコンサルティング企業の皆様におかれましては、
支援先のユーザー企業を想定してください。

DX-IT推進指標のコンセプト

1. DX-IT推進指標の基本設計コンセプト

- ① 基礎となる考え方
- ② 得られる利点

DX-IT推進指標とは

- デジタルガバナンス・コード3.0が示す「DX戦略を推進するためのITシステム環境の整備」に基づき、DX戦略の推進に必要なITガバナンスの状況を可視化します。
- 本指標は「指標評価シート」と「ガイドブック」から構成され、「(1)自己診断～(2)結果確認～(3)次の一手の確認」を繰り返すことで、DX戦略の推進に必要なITガバナンスを継続的に向上できます。

(1)自己診断

指標評価シート

指標回答シート

IT・データの活用方針等、DX戦略に必要なITガバナンスの現状を可視化する設問を記載

指標ID	指標名	指標説明	現状	目標
ITG001	IT戦略の策定	IT戦略の策定が完了している。	レベル3	レベル5
ITG002	ITガバナンス体制の整備	ITガバナンス体制が整備されている。	レベル4	レベル5
ITG003	ITシステムのセキュリティ対策	ITシステムのセキュリティ対策が実施されている。	レベル4	レベル5
ITG004	ITシステムの運用管理	ITシステムの運用管理が実施されている。	レベル4	レベル5
ITG005	ITシステムの更新・廃止管理	ITシステムの更新・廃止管理が実施されている。	レベル4	レベル5
ITG006	ITシステムのリスク管理	ITシステムのリスク管理が実施されている。	レベル4	レベル5
ITG007	ITシステムのインシデント対応	ITシステムのインシデント対応が実施されている。	レベル4	レベル5
ITG008	ITシステムのバックアップ	ITシステムのバックアップが実施されている。	レベル4	レベル5
ITG009	ITシステムの災害復旧	ITシステムの災害復旧が実施されている。	レベル4	レベル5
ITG010	ITシステムの継続的改善	ITシステムの継続的改善が実施されている。	レベル4	レベル5

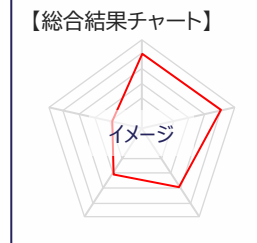
自動
作成

(2)結果確認

自己評価レポート

成熟度をビジュアル化・立ち位置確認

【総評】
~~~~~



|               |      |
|---------------|------|
| ガバナンス体制の明確化   | レベル3 |
| 戦略と情報資産の関係性管理 | レベル5 |
| ...           | ...  |

改善策  
確認

## (3)次の一手の確認

### ガイドブック

#### 次の一手ガイド

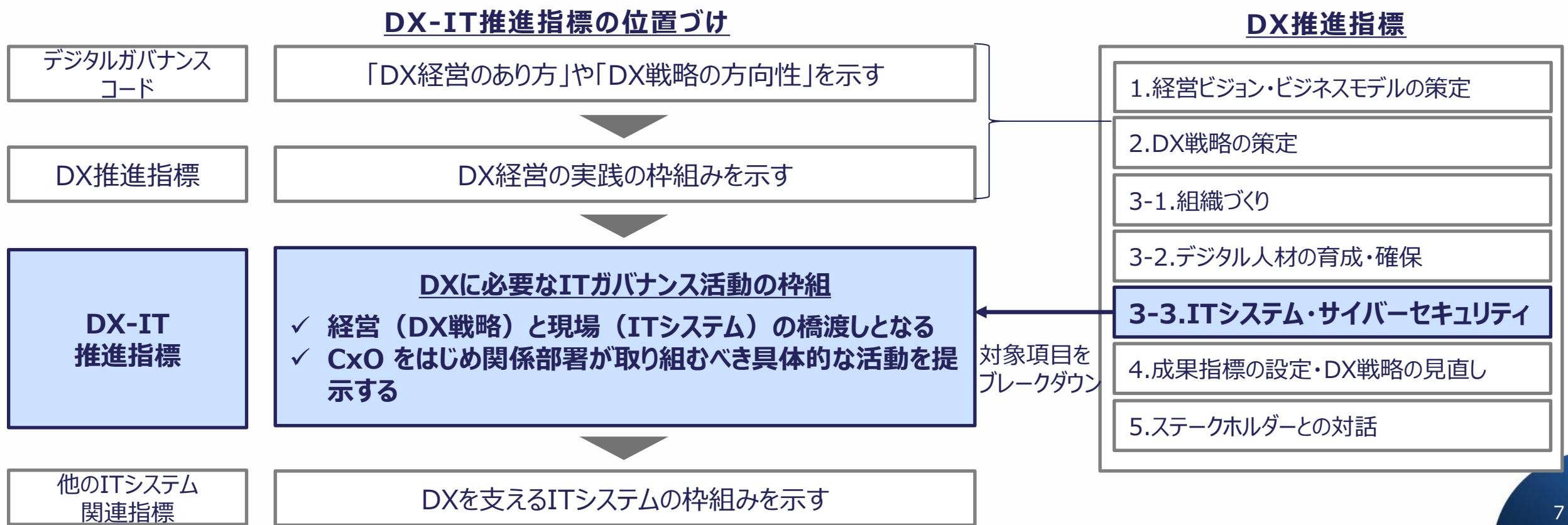
成熟度向上に向けた具体的な行動、次の一手を記載

|                   |                   |                   |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 【パターン1】<br>イメージ   | 【パターン2】<br>イメージ   | 【パターン3】<br>イメージ   |
| 【強化ポイント】<br>~~~~~ | 【強化ポイント】<br>~~~~~ | 【強化ポイント】<br>~~~~~ |
| ガバナンス体制の明確化       | レベル0→1<br>レベル1→2  | 現状の体制、役割の棚卸       |
| ...               | ...               | ...               |

# DX-IT推進指標の位置づけ

本指標は、**DX戦略とITシステムの間をつなぐ指針**となることを目指しています。

- DX推進指標の「3-3.ITシステム・サイバーセキュリティ」の内、**ITシステムに関する設問を主にブレイクダウン**
- DX戦略をITシステムに落とし込むために必要なITガバナンスの在り方と、その構築に向けた活動を**具体的に提示**
- 経営者向けのDX推進指標とあわせて、CxO がDXを推進しやすくなる**共通言語**として機能



# DX-IT推進指標の活用方法

- 本指標は「CIO/CDOやIT部門長等、意思決定ができる方」が判定し、「経営層(CEO)」と会話するコミュニケーションツール（共通言語）として活用することで、経営と現場が一体となってDXを推進できます。
- 自己診断や改善活動はステークホルダーとの対話を通じて進め、定期的な評価によりDX推進の進捗と改善の方向性を明確化し、継続的に成熟度向上を図ることができます。
- 本指標は、DX全体やITガバナンスを網羅するものではないため、DX推進指標や既存のITガバナンスの取組と併せて活用することを想定しています。

【想定組織構造、および、実施内容例】

| プロセス    | 実施内容                                                     | 使用ツール    | CEO | CIO(※)         | CDO(※)        | IT部門 | DX推進部門 | 業務部門 |
|---------|----------------------------------------------------------|----------|-----|----------------|---------------|------|--------|------|
| 自己診断    | ・ 設問に回答し、DXを支えるITガバナンス(IT/データ活用方針、体制等)の状況を診断             | 指標回答シート  | 承認  | 回答指示<br>承認     | 情報提供・回答作成     |      |        |      |
| 結果確認    | ・ 自己評価レポートのレーダーチャートやベンチマークから自社の改善点・立ち位置を確認               | 自己評価レポート | 承認  | 改善指示<br>承認     | 結果確認・改善点検討・提案 |      |        |      |
| 次の一手の確認 | ・ 次のレベルに行くためのアクションをガイドブックにて確認                            | ガイドブック   | 承認  | アクション<br>指示・承認 | アクションの確認      |      |        |      |
| 改善遂行    | ・ 経営層と協議しながら施策の方針を策定<br>・ IT部門や業務部門など現場と連携を取り施策の計画・実行を推進 | —        | 承認  | 施策指示<br>承認     | 施策検討実施        |      |        |      |

(\*) CIO(Chief Information Officer)/CDO(Chief Digital Officer、Chief Data Officer)を配置していない企業の場合、それに相当する役職や部署を想定

# DX-IT推進指標で重視する点

- DXの進展を、「DX推進に必要なITガバナンスの観点」で後押しするために、指標の策定においては「**実効性**」と「**普及性**」を重視しています。

## [実効性]

- 指標が「**実際の企業行動変化に結びつく**」こと

| # | 要素    | 主な観点                                                                                                   |
|---|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 行動誘発性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>次の行動（改善・投資・体制整備など）につながるか</li> <li>「次に何をすべきか」が明確になる設計</li> </ul> |
| 2 | 改善連動性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な自己改善が可能か</li> <li>経年比較やベンチマークによる改善サイクルの実現</li> </ul>        |
| 3 | 内部活用度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>経営層・現場層の共通言語として議論に活用されるか</li> <li>利用者層の広さ</li> </ul>            |

## [普及性]

- 指標が「**多様な企業にとって使いやすい**」こと

| # | 要素    | 主な観点                                                                                      |
|---|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 多様性   | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業規模・業界を絞らず広く適用できるか</li> </ul>                     |
| 2 | 理解容易性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>構成や活用による効果がわかりやすいか</li> <li>設問背景のわかりやすさ</li> </ul> |
| 3 | 操作容易性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>入力・提出・分析のプロセス負担が少ないか（エクセル・Webフォーム・自動化等）</li> </ul> |

# DX-IT推進指標のDX推進上の利点

- 本指標で自社の「DX推進に必要なITガバナンス」の現状を可視化し、取り組むべき活動を定めて継続的に改善することで、DX推進指標の望ましい状態に達する確度を向上できます。



## 【ITシステムの望ましい状態の定義】

- IT資産の可視化
- 技術的負債の回避
- データ利活用によるビジネス成長

本指標で達成  
を後押し

## 【望ましい状態へ達することで得られる利点】

- DX戦略に基づくIT投資の最適化
- 再レガシー化を防ぐプロセスの構築
- 変化市場に迅速に対応可能なITシステムの構築

## 「DX推進に必要なITガバナンス」を推進するツール群

### 指標回答シート

| 指標ID   | 指標名             | 評価項目            | 現状                      | 目標                      |
|--------|-----------------|-----------------|-------------------------|-------------------------|
| ITG001 | IT資産の可視化        | IT資産の可視化        | IT資産の可視化が完了している。        | IT資産の可視化が完了している。        |
| ITG002 | 技術的負債の回避        | 技術的負債の回避        | 技術的負債の回避が完了している。        | 技術的負債の回避が完了している。        |
| ITG003 | データ利活用によるビジネス成長 | データ利活用によるビジネス成長 | データ利活用によるビジネス成長が完了している。 | データ利活用によるビジネス成長が完了している。 |

### 自己評価 レポート

|               |            |
|---------------|------------|
| 【総評】          | 【総合結果チャート】 |
| ~~~~~         | イメージ       |
| ガバナンス体制の明確化   | レベル3       |
| 戦略と情報資産の関係性管理 | レベル5       |
| ...           | ...        |

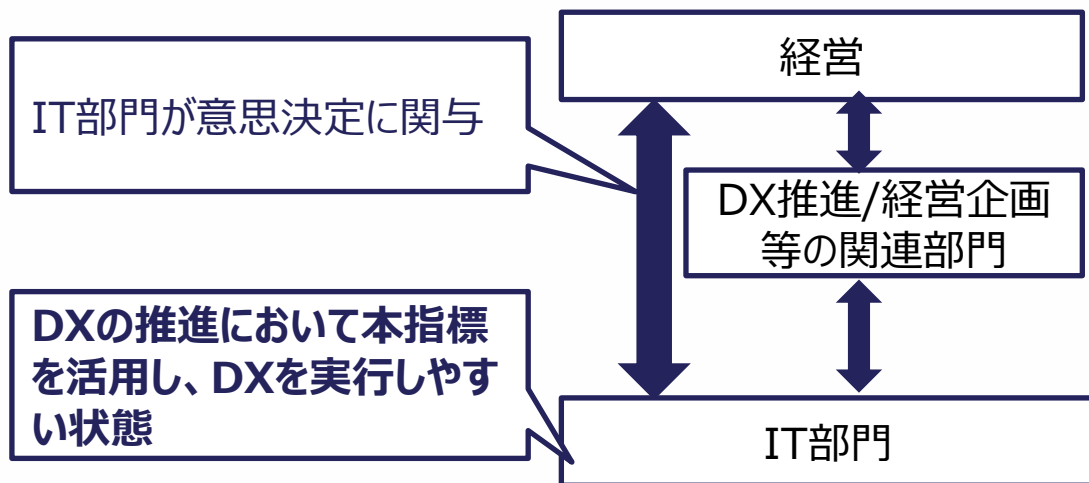
### 次の一手ガイド

|                 |                 |                 |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 【パターン1】<br>イメージ | 【パターン2】<br>イメージ | 【パターン3】<br>イメージ |
| 【強化ポイント】        | 【強化ポイント】        | 【強化ポイント】        |
| ~~~~~           | ~~~~~           | ~~~~~           |
| ガバナンス体制の明確化     | レベル0→1          | 現状の体制、役割の棚卸     |
|                 | レベル1→2          | ...             |
| ...             | ...             | ...             |

# 本指標の効果を発揮しやすい組織形態

- DX推進における組織課題は、「関連部署と一体になった意思決定」と「部署間の連携」の不足の2つに分けられます。
- 本指標は、これらの課題がある場合においても活用は可能ですが、DXに関する経営側の意思決定にIT部門が実質的に関与できる環境で活用することでより効果を発揮します。本指標は、このような環境での活用を想定しています。

## 【経営とIT部門が一体になった意思決定のイメージ】

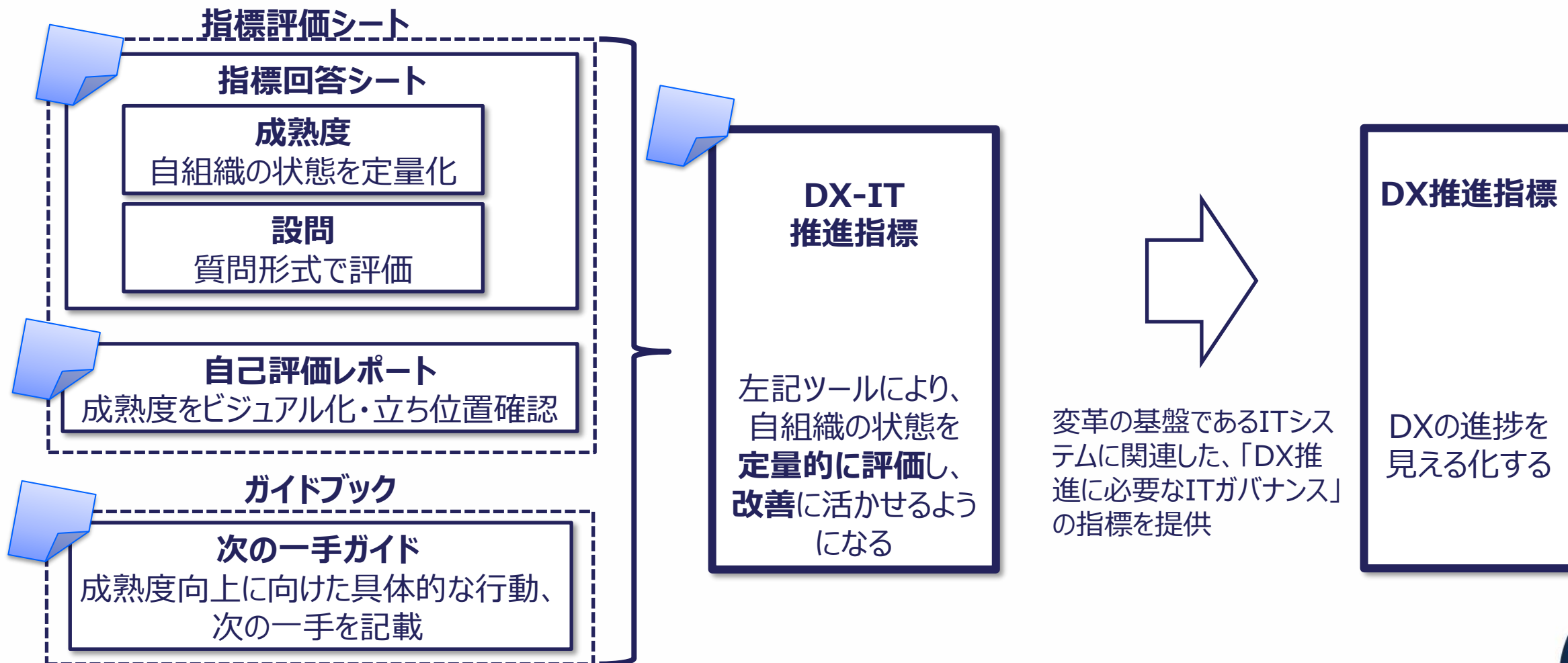


- IT部門がDXの方針策定や優先順位づけ等に実質的に関与できる、かつ、
- DX推進部門とIT部門が連携し、DXに関連するシステムの実装を推進する環境がある
- ⇒ **DXが構造的に進展しやすい状態となる**

## 2. DX-IT推進指標の各要素のコンセプト

# 本指標の構成要素とDX推進指標との関係性

- ◆ 本指標は**指標評価シート(指標回答シート、自己評価レポート)**、**ガイドブック(次の一手ガイド)**から構成されます



## 2. DX-IT推進指標の各要素のコンセプト

- ③ 成熟度の考え方

# 成熟度の考え方

- 国際的に運用されている「ITガバナンスのためのフレームワーク」（COBIT<sup>(※)</sup>等）の成熟度概念を参考に、国内の企業特性に適合した「DX戦略の推進に必要なITガバナンス」に関する成熟度を整備していきます。

| レベル | 定義                         |                                 |
|-----|----------------------------|---------------------------------|
| 5   | 最適化レベル（継続的かつ進化しつづける仕組みがある） | } 最高レベル定義                       |
| 4   | 定量管理レベル（定量的に管理・最適化されている）   |                                 |
| 3   | 標準化・定着レベル（組織基準として確立している）   | ↑<br>収集したご意見等を踏まえ、<br>レベルを詳細化予定 |
| 2   | 管理レベル（手順化され管理されている）        |                                 |
| 1   | 実行レベル（活動自体はあるが、担当者依存）      |                                 |
| 0   | 未実施（活動が存在しないまたは断片的）        | } 最低レベル定義                       |

整備・試作中の成熟度定義はサンプルレベルで、レベル0相当とレベル4~5相当の2つをそれぞれの設問毎に作成しています。この範囲で所感などをお伺いしたいと考えています。

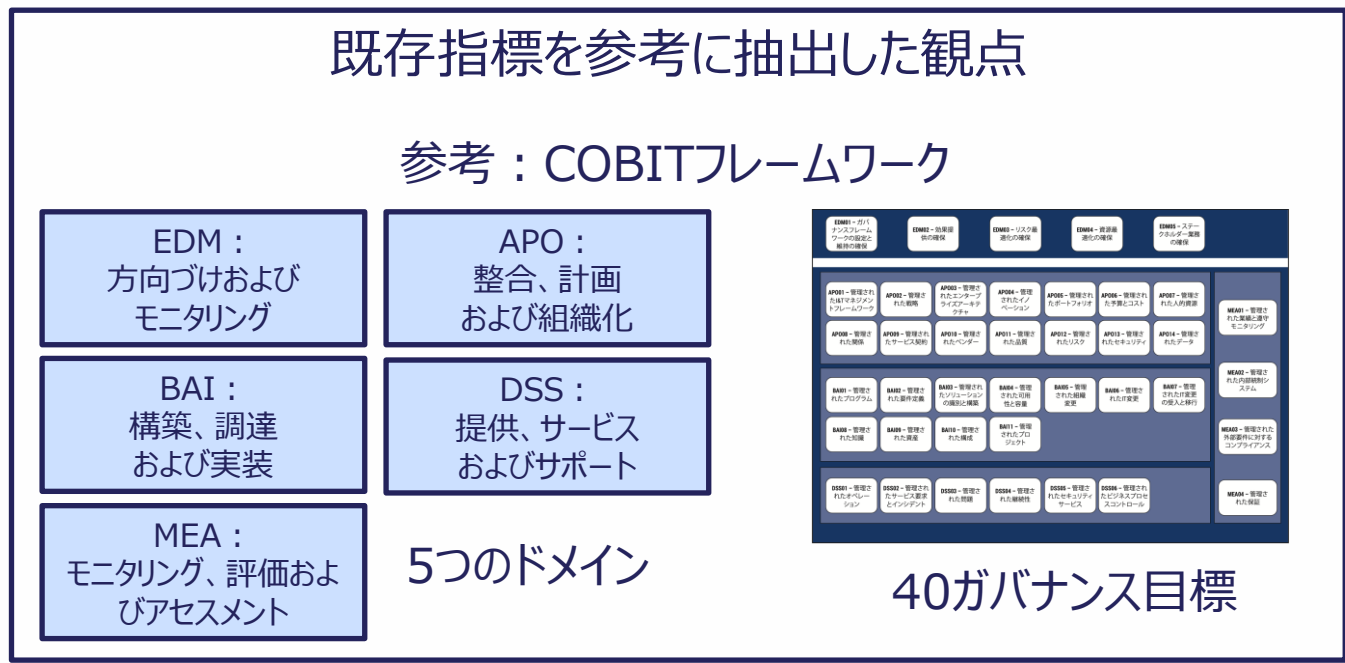
(※) COBIT: <https://www.isaca.org/resources/cobit>

## 2. DX-IT推進指標の各要素のコンセプト

- ④ 指標設問の策定方針

# 指標で考慮すべき観点の策定方針

- 設問観点の網羅性のベースライン確保のために、ITガバナンス関連の既存指標を参考に観点を抽出します。
- そのうえで、日本固有の設問観点を付け加えて企業が活用しやすいように仕立てる方針です。



+

日本固有の事情を考慮した観点(検討中)

【狙い】  
海外で広い実績があり網羅性が高いと考えられるITガバナンスフレームワーク（COBIT等）を参考に、DX-IT推進指標の観点網羅性を確保(※)。

【狙い】  
日本のDX推進上の課題など固有の事情を考慮した観点を追加することで、実効性を強化。

※DX-IT推進指標の位置づけとCOBITとの差異は付録に掲載

# カテゴリ案

- 既存指標を参考に5つのカテゴリ案を策定※1

| # | DX戦略に必要なITガバナンス観点（カテゴリ） | 主な観点※2                                                                                                                       |
|---|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ガバナンス構築・体制整備            | <ul style="list-style-type: none"> <li>ガバナンス体制の明確化</li> <li>基準・ルール・体制の改善</li> </ul>                                          |
| 2 | 戦略・方針管理                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>全社戦略と整合した IT・データ活用方針の策定</li> <li>戦略と情報資産の関係性管理</li> </ul>                             |
| 3 | 投資・リソース・価値管理            | <ul style="list-style-type: none"> <li>ITシステム・データの投資効果評価</li> <li>リソース最適化方針整理/実施確認/方針更新</li> <li>リソース・投資・刷新計画の見直し</li> </ul> |
| 4 | リスク・コンプライアンス管理          | <ul style="list-style-type: none"> <li>リスク評価方針更新/整理</li> <li>リスク管理の実施確認</li> </ul>                                           |
| 5 | 継続的改善・最適化               | <ul style="list-style-type: none"> <li>ITシステム・データ利用の改善方針の更新</li> <li>技術連携の速度・障害傾向の評価</li> <li>安定かつ高速連携の実現</li> </ul>         |

※1：前項中の「日本固有の事情を考慮した観点」は収集したご意見も踏まえ今後、継続検討

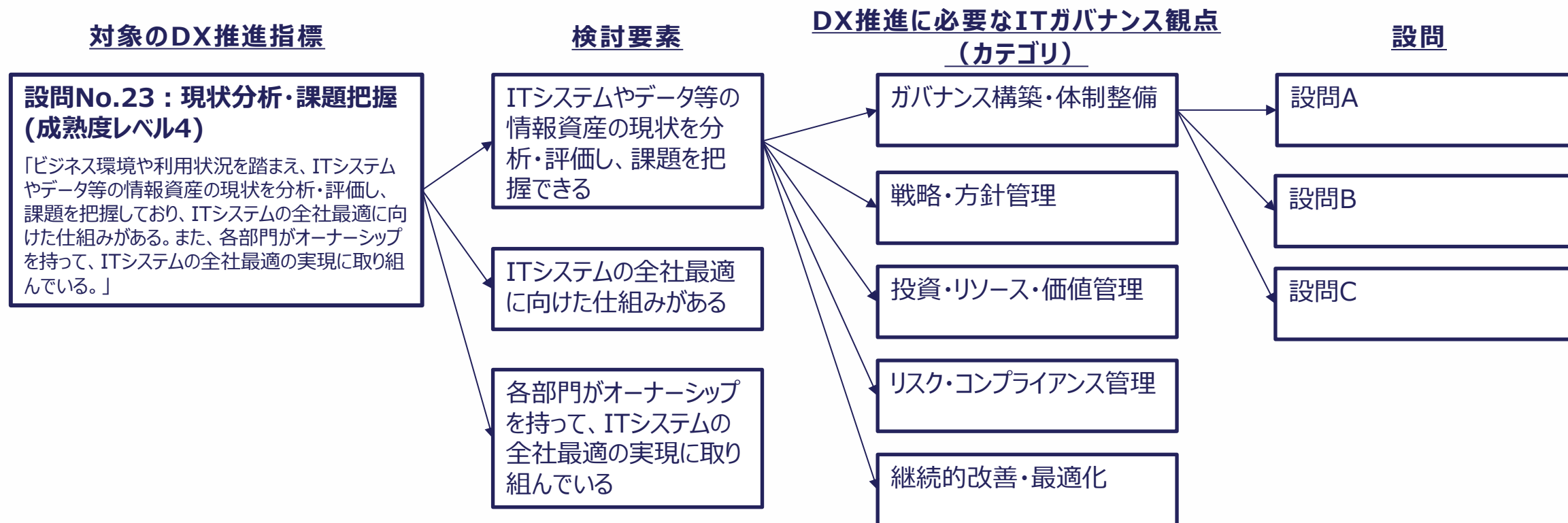
※2：抽出した観点の一覧は本書末尾の付録参照

# 指標設問の策定方法

- DX推進指標の「3-3.ITシステム・サイバーセキュリティ」の内、ITシステムに関する設問(計3つ)を、それぞれ検討要素に分解したうえで、DX戦略の推進に必要なITガバナンス観点に沿ってブレークダウンして設問化

STEP1: 文言レベルで分解し検討要素として抽出

STEP2: 下記観点ごとに検討要素の実施度合いを測る設問を策定



※他のブレークダウン対象のDX推進指標の設問(No24,25)も同様

# 指標設問のフォーマットの工夫

- 現場での使いやすさを考慮して、策定した指標設問をPDCA観点で整理しフォーマット化
- このフォーマットの活用で、**是正を行い改善ループを回す企業活動**ができるようになります。

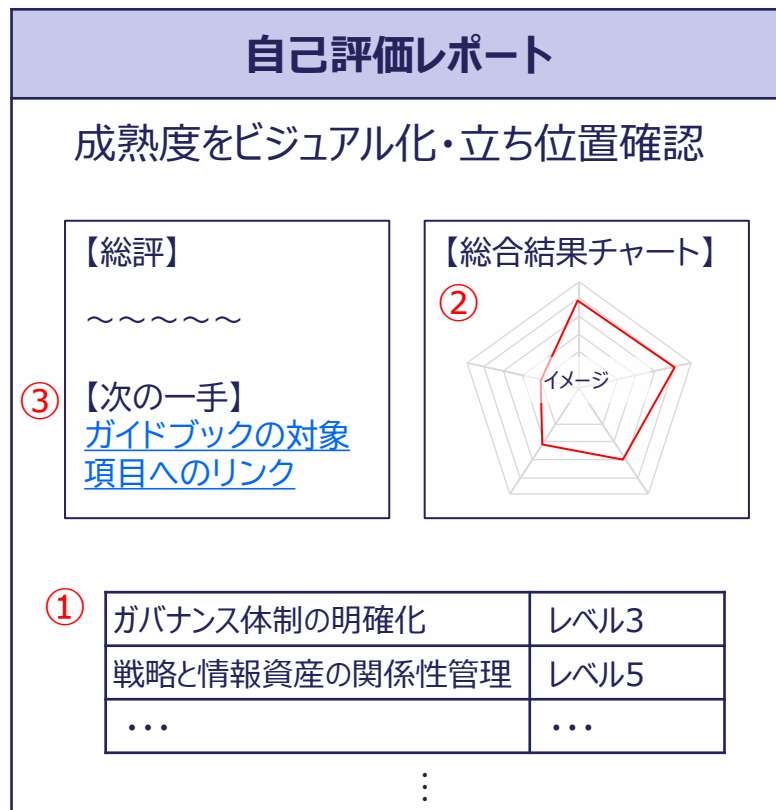
| DX推進指標の目指す姿(例)                                                                                                            | 活動サイクル                         | 設問観点                       | 設問                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|----------------------------|----------------------------------------------|
| ビジネス環境や利用状況を踏まえ、ITシステムやデータ等の情報資産の現状を分析・評価し、課題を把握しており、ITシステムの全社最適に向けた仕組みがある。<br>また、各部門がオーナーシップを持って、ITシステムの全社最適の実現に取り組んでいる。 | <b>Plan<br/>(方針・整備・枠組み・計画)</b> | 例：ガバナンス体制の明確化              | 例：組織の責任分担・ルールが明確か                            |
|                                                                                                                           | <b>Do(運用実行)</b>                | 例：各部門を巻き込んだ全社最適の実現に向けた取り組み | 例：各部門がオーナーシップを持って取り組みを進めているか。                |
|                                                                                                                           | <b>Check(評価・監視)</b>            | 例：ITシステム・データの投資効果評価/リスク管理  | 例：システムやデータ基盤の利用状況・性能・品質を把握し、期待される価値を評価しているか。 |
|                                                                                                                           | <b>Action(改善・是正)</b>           | 例：リスク評価方針更新                | 例：管理方針の改善項目を抽出しているか。                         |

DX推進指標の目指す姿に連動させ、PDCA観点で整理することで、企業活動の流れに沿って改善活動を進めやすくするよう考慮

- ## 2. DX-IT推進指標の各要素のコンセプト
- ⑤ 自己評価レポートおよびガイドブック

# 自己評価レポートのコンセプト

- 指標設問の**回答結果をわかりやすくビジュアル化**し、成熟度を一目で把握できるようになります。
- 成熟度をビジュアル化することで、自社の現状と改善余地を明確にし、**改善領域の優先順位付けおよび次の一手の検討を支援**します。



## ◆ 想定記載項目※1 :

- ① 「DX推進に必要なITガバナンス」の成熟度及び設問ごとの評価結果
- ② レーダーチャート等のグラフ表示による成熟度のビジュアル化
  - 改善すべき重点領域をカテゴリやPDCA単位等で可視化
  - 自社の業界平均との比較※2
  - 過去の診断結果との経年比較※2
- ③ 次の一手の紹介
  - ガイドブックの対象項目へのリンク等※2

## ◆ 実現方針 :

- 試作版はExcelで提供し、将来的にはシステム化を進める構想です。各設問への回答だけで、上記項目を一連の操作で参照できる仕組みを目指します。

※1：検討中のため変更される可能性があります  
 ※2：将来のシステム化を前提とした項目です

# ガイドブックのコンセプト

- 指標の評価結果に応じ、成熟度向上のために、具体的にどのような活動をすればよいか**次の一手となるヒントを提示**します。
- 企業が診断結果を踏まえて効果的に改善活動を進められるよう、指標の活用ポイント・改善施策例を体系的に示すことで、「評価して終わり」ではなく**改善につながる実務指南書**とすることを目指します。

## 次の一手ガイド

成熟度向上に向けた具体的な行動、次の一手を記載

①

|                   |                   |                   |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 【パターン1】<br>イメージ   | 【パターン2】<br>イメージ   | 【パターン3】<br>イメージ   |
| 【強化ポイント】<br>~~~~~ | 【強化ポイント】<br>~~~~~ | 【強化ポイント】<br>~~~~~ |

②

| 観点          | レベル    | 次の一手        | 参考情報                |
|-------------|--------|-------------|---------------------|
| ガバナンス体制の明確化 | レベル0→1 | 現状の体制、役割の棚卸 | <a href="#">事例A</a> |
|             | レベル1→2 | ...         |                     |
| ...         | ...    | ...         |                     |

### ◆ 想定記載内容※1 :

- DX推進上よくある課題パターンに対する強化ポイント
- 設問ごとの解説・改善方法
  - 設問の背景・目的
  - 取り組むべき次の一手
  - 参考になるガイドや事例などの情報

### ◆ 実現方針 :

- 将来の構想としてはシステム化を進め、指標評価シートと連動された形で参照できる仕組みとすることを目指す。

### 3. 評価に関するご案内

- 本指標のコンセプト評価
- 指標評価シート(指標設問、成熟度、自己評価レポート)、および、ガイドブックのご試用についてのご案内

# 本指標のご意見をお寄せください

- ◆ 本指標に関するご意見・ご提案をお待ちしております。
- ◆ いただいた内容は、実務に役立つ指標とするための改善に活用いたします。詳細は以下をご参照ください。
  - コンセプトのご評価(P26~P27)
  - 指標のご試用(P28~P30)
- ◆ 全てに回答いただく必要はありません。気になる部分について、可能な範囲でご回答ください。本指標とAIの関連についても、ぜひご意見をお寄せください。

## ◆ 手順

- 意見募集回答フォームよりご回答をお願いします
  - 【ベンダー企業様・コンサル企業様の視点】
    - 直近でご支援した顧客の状況について、可能な範囲でご回答いただけますと幸いです。
  - 【事業会社様の視点】
    - 自社の状況について、ご回答いただけますと幸いです。

意見募集回答フォーム画面のイメージ

※ 必須 CDO（最高デジタル責任者）は設置されていますか。

CDOを設置している

わからない

設置していない

その他

※ 必須 CDO（最高データ責任者）は設置されていますか。

CDOを設置している

わからない

設置していない

その他

⋮

## ◆ 手順

- 意見募集回答フォームよりご回答をお願いします
  - 「はじめにご回答いただける指標をお選びください」の設問で「DX-IT推進指標」をチェックします
  - 最後に自由記載形式の設問もご用意しております。本指標に関する全体的なコメントやご要望など自由な観点でご記載ください。

### 意見募集回答フォーム画面のイメージ

「データとITシステムの利活用状況を可視化し、企業のDXを加速する新指標」に係る意見募集フォームです。下記フォームに必要事項を入力ください。  
ブラウザの「戻る」ボタンは、使用しないでください。

はじめにご回答いただける指標をお選びください **※必須**

IT・データ活用に関する組織連携指標

DX-IT推進指標 ←回答対象の指標に「DX-IT推進指標」をチェック

データマチュリティ推進指標

戻る

次へ

一時保存

Copyright [独立行政法人情報処理推進機構 \(IPA\)](#)

#### DX-IT推進指標コンセプトについて

(設問1) DX-IT推進指標説明書P.6~P.10 (①基礎となる考え方②得られる利点) についてお伺いします。DX-IT推進指標の基礎となる考え方が妥当と考えられますでしょうか。主に以下の観点でご確認ください。

- ・ 目的の内容について、貴社の視点から追加・変更すべき点はないか
- ・ DX推進指標の望ましい状態の達成を後押しする本指標は必要と考えられるか
- ・ 重視する点に他の観点は考えられるか
- ・ 他に必要なツールはないか
- ・ 指標の活用方法に対するご意見

**※必須**

3\_妥当

2\_おおむね妥当

1\_妥当でない

0\_判断できない

上記の回答で「妥当でない」「判断できない」を選択した場合はその理由をご記載ください。妥当性が低い場合は、不足する点や別の視点の考え方があればお願いします。その他気になる点があれば自由に記載ください。

以降は、本指標をご試用いただき、フィードバックをお送りいただける場合のご案内です。

現状の整備状況についてご説明します。

- 指標設問：1問にフォーカスし、回答に基づく成熟度の確認が可能です
- 自己評価レポート：グラフ表示により、成熟度を直感的に把握できます
- ガイドブック：成熟度の考え方や整理方法をご確認いただけます

| 検証対象     | 整備状況と確認内容の対応関係                                                          |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|
| 指標設問     | 試作中の全30問の中から、 <b>1問（設問No3-6）</b> に対してご確認いただけます。                         |
| 成熟度      | 上記1問に対する成熟度6段階を設定。<br><b>この1問に対する成熟度をご確認いただけます。</b>                     |
| 自己評価レポート | <b>一目で成熟度を確認できるかをご確認いただけます。</b> ご回答いただいた設問以外の成熟度と比較対象業種スコアはダミーです。       |
| ガイドブック   | 成熟度説明と次の一手の記載項目を設定(次の一手の記事自体はサンプルです)。<br><b>成熟度説明やまとめ方などをご確認いただけます。</b> |

# ご試用結果に関するご回答について

- 意見募集回答フォームからご回答をお願いします。DX-IT推進指標に関する設問「DX-IT推進指標を試用された場合は、引き続き次の質問にご回答ください。」に「はい」と回答すると、設問13以降が表示されます。

「設問13」から順に進めます

各設問の内容をご確認ください。

回答の選択をお願いします。

(設問13) DX-IT推進指標 ガイドブックP.21 (今回対象の設問No3-6の背景と目的) についてお伺いします。  
設問内容の適切な理解や、組織内での議論・気づきを促すことを目的として、「設問の背景・目的」を記載しております。本対応は有効と考えておりますが、妥当と考えられますでしょうか。

※必須

- 3\_妥当
- 2\_おおむね妥当
- 1\_妥当でない
- 0\_判断できない

上記の回答で「妥当でない」「判断できない」を選択した場合はその理由をご記載ください。

回答内容に応じて追加記載を頂く場合があります

# ガイドブック確認の補足

- ガイドブックの整備状況、および、ご確認頂きたい点について補足します。  
内容の詳細は、ガイドブックをご確認ください。

| # | ガイドブック内項目 | 記載項    | 確認内容の補足説明                                                                                   |
|---|-----------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 設問の背景・目的  | P21    | 設問No3-6を対象に、設問の背景や目的を記載しています。企業の実情に合うか等、妥当性についてご確認ください。                                     |
| 2 | 設問の成熟度    | P22    | 成熟度の基本方針を踏まえ、設問No3-6の成熟度を定義しています。企業の実情に合うか、内容の妥当性のご確認をお願いします。また、自社の成熟度を適切に自己判断できたかもご確認ください。 |
| 3 | 次の一手例     | P23-28 | 設問No3-6に関する次の一手についてです。記載内容はサンプルです。着眼点、課題、次の一手例など記載項目のレベルで過不足がないか、他に必要な情報が無いかをご確認ください。       |

本件に関するお問い合わせは、下記窓口までお願いいたします。

## 【DX-IT推進指標窓口】

- メールアドレス：[disc-legacy-mod@ipa.go.jp](mailto:disc-legacy-mod@ipa.go.jp)

# 付録

# DX-IT推進指標の位置づけとCOBITとの差異

- 本指標は、DX推進に必要なITガバナンスに焦点を当てており、DX全体や一般的なITガバナンスを網羅することを目的としておりません。このため、本指標はDX推進指標や既存のITガバナンスの取組と併せて活用することを想定しています。
- 日本固有のDXの課題を踏まえた、成熟度ギャップへの有効な問いや成熟度向上のための具体的な一手例を豊富に備え、すぐに使える指標のツール群を提供します。

|          | DX-IT推進指標                                                                                        | COBIT                                                                                                                                             |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 対象       | DX推進に必要なITガバナンスに焦点                                                                               | ITガバナンス全体（網羅的）                                                                                                                                    |
| 特徴       | <ul style="list-style-type: none"><li>•DXにフォーカスした設計</li><li>•日本固有事情を反映</li></ul>                 | <ul style="list-style-type: none"><li>•DXにフォーカスしない<br/>(ITガバナンスの包括的フレームワーク)</li><li>•海外ベース</li></ul>                                              |
| DX文脈での活用 | <ul style="list-style-type: none"><li>•そのまま活用可能</li><li>•ガイド類が充実</li></ul> <p>⇒国内の状況を反映した指標類</p> | <p>そのままでは活用が難しく、以下が必要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>•対象の絞り込み</li><li>•DX文脈への読み替え</li><li>•日本向けテーラリング</li></ul> <p>⇒ 自力でブレークダウンが必要</p> |

## (参考) 指標設問の観点の詳細

| カテゴリ         | 観点                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ガバナンス構築・体制整備 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ガバナンス体制の明確化</li> <li>説明責任の明確化</li> <li>社内連携体制・外部委託・保守運用の管理標準・統制実行</li> <li>ベンダー管理標準の整備</li> <li>基準・ルール・体制の改善</li> <li>アーキテクチャ標準・運用ルールの遵守度評価</li> <li>アーキテクチャ標準・運用ルール・方針の更新</li> </ul> |
| 戦略・方針管理      | <ul style="list-style-type: none"> <li>全社戦略と整合した IT・データ活用方針の策定</li> <li>戦略と情報資産の関係性管理</li> <li>IT 戦略・ロードマップの更新</li> <li>エンタープライズアーキテクチャ標準の整備</li> <li>事業横断・プロジェクト横断の刷新統制</li> <li>各部門を巻き込んだ全社最適の実現に向けた取り組み</li> </ul>        |
| 投資・リソース・価値管理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ITシステム・データの投資効果評価</li> <li>リソース最適化方針整理/実施確認/方針更新</li> <li>リソース・投資・刷新計画の見直し</li> </ul>                                                                                                 |

| カテゴリ           | 観点                                                                                                                                                        |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| リスク・コンプライアンス管理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>リスク評価方針更新/整理</li> <li>リスク管理の実施確認</li> <li>老朽化・技術負債リスクの継続的評価</li> <li>技術負債解消の実行</li> <li>体制運用・対策実行の妥当性評価</li> </ul> |
| 継続的改善・最適化      | <ul style="list-style-type: none"> <li>ITシステム・データ利用の改善方針の更新</li> <li>技術連携の速度・障害傾向の評価</li> <li>安定かつ高速連携の実現</li> </ul>                                      |



DX-IT推進指標 説明書

<https://www.ipa.go.jp/disc/committee/dx-it-data-assessment.html>

2026年5月25日

独立行政法人情報処理推進機構

©Information-technology Promotion Agency, Japan (IPA)

<https://www.ipa.go.jp>

<この文書のご利用にあたって> 本指標の内容を適用した結果生じたこと、  
また、適用できなかった結果については、IPAは一切の責任を負いかねますのでご了承ください。